平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ３０４ ※記入不要	提案機関名	神奈川県内水面養殖業者協議会

要望問題

チョウザメの養殖と採卵手法の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

現在、内水面養殖業のおかれている状況は、コイのヘルペスウイルス病やアユの冷水病の発生などによる被害を受け、生産額が減少しており、既存の養殖対象種のみでは今後の発展が見込めない状況です。本県の場合、養殖業者直営の飲食施設や、横浜を中心とする中華街などの消費地もあることから、チョウザメの販売先を確保できる状況にあります。また、その卵のキャビアは高価であるため高収入が期待できます。チョウザメは地産地消型の新たな養殖対象種として、内水面養殖業の経営の安定化に資すると考えられますので、本魚種の養殖と採卵手法の開発を要望します。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産総合研究所内水面試験場
部　　署：生物工学チーム	
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名　（①、②、④の場合）	

対応の内容等

当試験場では平成９～１２年度の宮ヶ瀬湖有効利用研究事業において、ミズウミチョウザメの育成技術を研究しておりました。しかし、御要望では、これとは異なるベステルやシロチョウザメなどの種が該当すると思われますので、更なる研究が必要です。また、これら養殖種は、すでに他県の民間業者において種苗生産・販売が行われていますが、種苗価格が高いうえ、採卵手法は確立された周知の技術に至ってはいないと認識しております。

一方、チョウザメ類は適応水温が広く、病気も発生しにくいなど、比較的飼育しやすい魚類であり、新たな養殖対象種として有望であると思われます。

これらのことから、今後、県内養殖業者の技術普及先や流通体制を見計らって、技術開発に着手したいと考えております。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	